

ひらかんぽ



1/27
(土)
開催

防災ディスカッション

「もしもの時、私たちにできること」



ひらかた防災デー



枚方市内11の中学校から56人の中学生が集まり、「防災ディスカッション」を行いました。午前中の記念講演会を聞いた感動と興奮をそのままに、違う中学校で編成された10班に分かれるのが、中学生の自分たちでもできることは何か、といったことを話し合いました。とてもこの日に初めて集まったとは思えないくらいにディスカッションは盛り上がり、最後には、その充実さがうかがえるような素晴らしい発表がされました。

今回のディスカッションをきっかけに、災害時だけでなく、普段から自分のまちなに関心を持ち、自ら動き出してくれることを期待しています。



ひらかた防災デー



1/27
(土)
開催

ひらかた防災学校 記念講演会



ひらかた防災学校の記念講演会『あの日を語ろう、未来を語ろう』被災地を支えた中学生たち』を聞きました。講師は、元女川中学校教諭の佐藤敏郎さん、ゲストは、佐藤さんの教え子だった高校3年生の相澤朱音さんです。

佐藤さんは、東日本大震災で娘さんを亡くされた当時の状況や、中学生たちが本を出版したり、石碑を建てたりして、いかに復興に尽くしてきたかを熱く語ってくれました。そして、災害予防の方法や災害時には、いかに行動するかということも教えてくれました。

相澤さんは、親友を失った悲しみから前向きに立ち直った経緯や、『世界津波の日・高校生サミットin高知』に参加して、震災の「あの日」を語り部として未来につなげたいと話してくれました。人間は時間が経てば、何事も忘れがちですが、いざという時には、臨機応変に対応し、自分の命を守ることが大切ということを守んだ講演でした。

(文・向井 範雄)



2017年度ひらかた防災学校

学んで守ろう わが身わがまち

にぎやかなメセナひらかた会館の2階を中心にまわりました。市民グループ、行政、企業から、22ブースの出展があり、お昼前には、講演会後の中学生が大勢やってきたので盛り上がり、楽しく防災を学べました。スタンプラリーも、消しゴムで作った手作りのハンコを押してもらったり、とても評判でした。

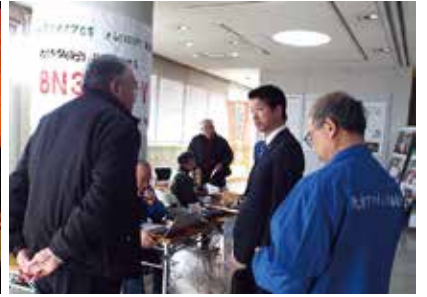
多目的ホールでは、初参加の大阪工業大学佐野研究室による最先端のVR体験。特殊アイマスクをかけると、すぐそこで燃えている火を消すという体験ができました。「川の民生委員」という河川レンジャーによる淀川浸水地図や、枚方市危機管理室の防災クイズの賞品がライト付き笛、そして枚方寝屋川消防組合では、ハシゴ車や消防車が紙で作れるキットなどが魅力的でした。熊本地震の被災地で活躍したりヴ・エナジのブースでは、熊本愛の素敵な本をいただきました。



ロビーでは、電話が使えない時頼りになる枚方アマチュア無線クラブでモリス信号を体験。羽藤防災の壁に穴をあけずに取り付けられる「粘着マット」などの防災グッズ、そして枚方スカウト協議会では、しっかりしたヒモの結び方など、すぐに役立つ防災知識をいろいろ学べました。

4階のお部屋では、ビジョンメガ枚方が、午前に睡眠のための運動講座、午後には女性と乳幼児のための防災講座を開催。午前中に行われていた障害者事業協会のキャンドル作りは、癒しにもなると実感しました。(文・高橋 佳子)

ひらかた防災デー



業の皆さんと交流しながら、事業に取り組んでいきたいと思っています。

今後、ひらかた市民活動支援センターでは、市民活動の次世代の育成と、世代間交流の橋渡しとなるような企画を考えていきたいと思っています。「防災」というキーワードは、いろんな意味で自分たちのまちを見直すきっかけになると思います。さまざまな分野のNPOの皆さんと、また地域や行政、学校、企業

今回、メセナひらかたで開催した、枚方市市制施行70周年記念事業「ひらかた防災デー」は、文字通り、朝から夕方まで、一日中、防災に関する体験や展示、講演などが盛りだくさんでした。来場者も小・中学生からお年寄りまで、年齢層が広く、また、災害弱者といわれる方たちの参加も多く、いろんな視点から内容を深めることができました。何より、防災ディスカッションに集まった中学生など、若い参加者が多かったので、大変活気のあるイベントとなりました。



えん・とも
ニュース

座等を企画できればと考えています。

その他、自治会やマンションの管理組合などから、備蓄品や高齢者の避難に関する相談も多く寄せられました。今後は、より地域の課題に応じた防災体験や講座等を企画できればと考えています。

2017年度も、各校区等で、10件の防災小学校を開催しました。校区の自主防災訓練では、防災クイズや水害避難体験、非常持出や備蓄品のお話を実施しました。また、子ども会や小学校からの依頼も多く、土曜参観、防災キャンプなどで、クロスロードや避難所体験、ロープワーク体験、防災グッズづくりなどを実施しました。



昨年とは違い、天候にも恵まれ、暖かい小春日和の中、「第29回天の川とんど祭」に参加しました。被災地支援活動の一環で、東北物産や熊本物産を、直接工場や作業所などから仕入れて販売させていただいています。震災から時間が過ぎようとも、多くの皆様に関心を寄せていただいています。関西からできることは少ないですが、できるところから末永く支援していきたいと思っています。



1/14
(日)
開催

天の川とんどまつり

体験レポ



サプリ村野学校の「詩を創ろう、詩を読もう」の講座を受講しました。講師は楠葉の朝日カルチャーセンターなどで教えている「美育会Bee」の井上良子先生です。

今回の講座には、日常の会話を言葉として整理したかった人、小説を書き始めたけど、長い文章が苦手なので詩に変わった人など、いろいろな方が参加していました。

先生はスケッチに行った時、絵が描けなくなった場合に言葉をスケッチにしたのが詩を始めたきっかけだそうです。

2/18・25 (日)開催

「詩を創ろう、詩を読もう」



「詩は言葉で単なる媒体ではなく、生き物として表現する」「文章の行間を大切にしよう」「詩は自分が生きることにもつながる」など、多くのことを教えていただきました。

日頃、小説を書くのが趣味の私は、言葉をだらだらと連ねているだけに、少々耳が痛かったです。

最後に自作の詩や自分の好きな詩を朗読して楽しい授業を終えましたが、高尚なディスカッションに、ちょっぴり疲れしました(笑)。

(文・向井 範雄)



サプリ村野学校



美育会Bee



11/10, 17, 12/1, 8(金)
学んで終わりにさせないファンドレイジング講座
《ひらかた市民活動支援センター》



1/13(土) 立体プチフラワーのピンブローチ
《ハンドメイドアクセサリー教室 リバリ工房》



1/13(土), 21(日) 体質改善入門編
《ビジョンヨガ枚方》

今年度のサプリ村野学校は、昨年度を越える38講座を開催し、のべ約500人の参加がありました。

ひらかた市民活動支援センターとしては、団体の運営に必要な「学んで終わりにさせないファンドレイジング講座」や相談会、また「個人情報保護法に関する学習会」や「ハラズメント講座」など、団体のスタッフを知っておくべきことなどを学べる講座も開催しました。

次年度も、個人や団体、年齢層など対象はいろいろですが、サプリ村野を会場に、講座を開催していきます。詳しくは、毎月の広報ひらかたをご覧ください。

サプリ村野学校



スポットインタビュー

日本ウミガメ協議会



謎の多いコスモポリタン

「ウミガメは陸ガメとスケールが違う。流線形の甲羅も、遠距離を泳ぐので海流への抵抗で

水族館でよく見かけるウミガメ。悠然と青い海を泳ぐ姿や、テレビでよく映される涙をこぼしながらの産卵のシーンは、とても神秘的で魅力的です。海には面していない枚方市長尾元町のビルの3階に、特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会の事務所があります。職員は全部で8人。高知県室戸市にある調査基地や沖縄県黒島研究所にも職員が常駐し、日本各地からの問い合わせや情報提供、海外からのメールも入ってくるウミガメ情報基地です。

できたもの。強力な移動能力を持つコスモポリタンです」と熱く語るのは、会長の松沢慶将さん。国際ウミガメ学会の会長でもあります。

事務局長の松宮賢佑さんにもお話を伺いました。

「7種のウミガメのうち、日本へ来るのは5種。その中でアカウミガメが、北太平洋で日本を唯一の産卵場所に行っています。産卵は一度に100個くらい、2週間おきに2〜4回産卵、2〜4年間隔で繰り返します。卵は陸上でなければ生きられず、温度によってオス、メスが決まり、2か月程度でふ化し、子ガメは、深夜、一斉に海を目指します。その後、外洋に出ると海流に乗ってアメリカ西海岸へと向かい、成長して、また日本沿岸に戻って産卵します。謎が多いですが、とてもロマンを感じます。」

毎年開催 日本ウミガメ会議

近年、産卵に適した砂浜の減少や、漁網に誤って捕獲されることなどが問題となっています。ウミガメを調査、研究、保全していくために、発信器やタグをつけ、回遊経路の追跡などを行っています。

また、毎年ウミガメにゆかりのある地で、日本ウミガメ会議



を開催し、全国からウミガメ関係者が集まり、活動の報告や情報の共有、交換を行っています。

最近では、先月末に神戸で第28回日本ウミガメ会議と、日本初開催となる国際ウミガメシンポジウムを開催いたしました。今回のウミガメ会議は、11月頃に鹿児島県与論島で開催します。

ウミガメサポーター募集中

日本では、浦島太郎など昔話でも馴染みのウミガメ。魅せられている人は多く、会員は、個人や団体、水族館、大学の研究者、企業など、600人を超えます。

一人の入会で、1頭のウミガメを助けることができるとのこと。子ガメの放流会など開かれますが、過度の干渉を控え、環境を整えようと、個人会員を募っています。

(聞き手・文/高橋 佳子)



■特定非営利活動法人 日本ウミガメ協議会

TEL : 072-864-0335 / FAX : 072-864-0535
枚方市長尾元町5-17-18マルタビル302
Eメール : info@umigame.org
http://www.umigame.org/index.html



ひらかたNPOフェスタ2018 開催!

2018年9月9日(日) 岡東中央公園・枚方市市民会館ほか

特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センターに登録している団体が、発表・展示・バザー・体験などを通じて、普段の活動を紹介し、学校や行政、企業や商店、地域の皆さんと交流する、年に一度のイベントです。

2017年度活躍のボランティアスタッフ

さまざまな事業やイベントで支えてくれた皆さま!
本当にありがとうございました!2018年度も、どうぞ
よろしくお願いしますm(_ _)m

生熊一登、大江真奈美、岡谷幸子、小田にしを、
川上一富實、川越あゆみ、川越沙優、岸上純也
熊澤力、庫本美弥子、斉藤操、酒井惇子、澤口伸男
澤口美津子、高嶋剛三郎、高橋佳子、中島一恵
中島重忠、西山実菜子、西脇嘉子、野上久江
宮岡真紀、宮崎ひとみ、宮富静子、向井範雄
室地咲季、山中忠次、吉田正男、鷺山秀子
(50音順・敬称略)



編集後記

2017年度も終わり、4月から新年度を迎える。慣れ親しんだ「平成」とも来年の5月でお別れ。次はどんな年になるのだろうか?東京オリンピックまであと2年。急速に進むホテルや施設の建設。箱ものだけでなく、人の対応も変革が求められている。国際化というだけでなく、ダイバーシティ(多様性)が求められる今の時代。NPOや市民活動も、さらに細かく、さまざまな人や状況に応じた活動を求められる時代となっているのかもしれない。(編集者・S)

【編集・発行】

特定非営利活動法人 ひらかた市民活動支援センター
〒573-0042
大阪府枚方市村野西町5-1サブリ村野内
TEL: 072-805-3537 / FAX: 072-805-3532
Eメール: info@hirakatanpo-c.net
http://www.hirakatanpo-c.net/



特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター
@hiracen



ひらせん(ひらかた市民活動支援センター)
@hiracen_info

ひらかた市民活動支援センター 登録団体募集!

特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センターでは、登録団体更新と、新規団体登録の受付中です。

★団体登録って?

団体のメンバーが5人以上で、公益性のある非営利活動団体および社会貢献活動を行っている団体

★登録団体のメリット

- ・団体の情報発信(チラシ配送、情報紙発行等)
 - ・さまざまな分野の団体との交流
 - ・地域や学校への活動PR事業 など
- 会員やメンバーを増やしたい、活動を広げたいという団体の皆様は、ぜひ登録してください!

★詳しくは、ひらかた市民活動支援センターまで
TEL: 072-805-3537

イラストだより



マラッカはマレーシアきっての古都です。悠久の時の流れにゆっくり浸ろうと思って、朝、クアラルンプールのホテルを出たのですが、とんでもない目に会いました。

まずバス乗り場への電車の路線を間違えたのがけちのつき始め。ようやくマラッカのバスステーションに着き、市街地までの循環バスに乗ろうと思ったのですが、これが1時間待ち。観光名所まで、わずか2.5キロなのに、ものすごい渋滞で、またもや1時間ほどかかりました。結局、予約した帰りのバスに間に合うように観光はあきらめ、次に来たバスに乗って帰りました。12時間かけて、観光地にいたのは、わずか10分ほど。帰ってホテルで飲んだビールが美味しかったなあ。とほほ。

(イラスト・文/向井 範雄)